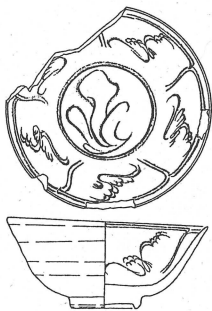


雲仙市文化財調査報告書（概報） 第5集

i ko  
伊古遺跡

（中世編）

—古江地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査概報—



2008

長崎県雲仙市教育委員会



## 発行にあたって

このたび平成18年度に実施しました古江地区圃場整備事業に伴う伊古遺跡の発掘調査の報告書（概報）を発行することになりました。当市は平成17年10月11日（<sup>と</sup>10に<sup>い</sup>11日）に7町（国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南串山町）が合併して誕生しました。「豊かな大地・輝く海とふれあう人々で築くたくましい郷土」の実現に向けて地域の発展を目指しています。

伊古遺跡は、島原半島の北側に位置し、標高約20mの扇状地台地上の水田地帯にひろがります。西側には西郷川が流れ、長い間脈々と営まれた古代人の農耕や生活の痕跡が永い年月を経て、発掘調査によってふたたび息を吹きかえたこととなります。遺跡の南側には雲仙普賢岳がそびえ、頂上付近には平成新山と名付けられた溶岩ドームが噴火の生々しさを今に伝えています。北側に目を移せば、眼下は有明海が広がり、佐賀県・福岡県・熊本県までも一望することができます。

これまでの調査において遺跡からは、縄文時代草創期から中世までの幅広い時代の遺物・遺構が発見されておりその埋蔵量は計り知れないほどです。縄文時代の遺物は土層堆積による部分的な文化層が検出されたのみで、残念ながら遺構は伴っていませんが、総出土点数約1550点を超え、黒曜石製細石刃や細石刃核などが多く出土しており、たいへん貴重な資料といえます。

今概報では遺跡より検出された中世の遺物・遺構について報告いたします。遺跡の周辺には中世の城跡である杉峰城跡や下田城跡などが分布し、中世の遺構・遺物が出土しています。伊古遺跡から検出された製鉄炉跡・道路状遺構・竪穴状遺構等からも、輸入青磁及び白磁をはじめ、土師器・瓦器椀・石鍋・緑釉陶磁器などの遺物が多数出土しております。石器を利用する古い時代から焼物の器を生活用品とする新しい時代までの期間、当地で暮らす祖先たちの生活の様相がうかがえます。

雲仙市の緑豊かな農業地帯も、近年の農業基盤整備に伴い大きく変貌しております。このような情勢の中で、祖先の貴重な文化遺産を保護し、これを後世に伝えることは、私たちに課せられた重要な責務であります。本市（旧7町）では、このような事態に対処するため、遺跡発掘調査を行い保存・保護に努めてまいりました。調査の成果を公開する一つの手立てとして報告書を作成いたしました。遺跡の宝庫といわれる本市にとりましては、貴重な歴史と文化を理解するうえで大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、地元地権者の皆様、工事関係者の皆様、大学・博物館関係の諸先生方ならびに長崎県学芸文化課の皆様のご指導に衷心より感謝申し上げます。

平成20年3月31日

雲仙市教育委員会  
教育長 鈴山勝利

# 例 言

- 1 本報告は平成18年度（2006年～2007年）に実施した古江地区県営圃場整備事業に伴う長崎県雲仙市瑞穂町に所在する伊古遺跡の発掘調査の報告（概報）である。
- 2 調査は雲仙市教育委員会が担当した。  
発掘調査は下記の期間実施した。  
2006年4月20日～2007年3月20日 伊古遺跡C区、D2区～D6区、E区、F区、G区、H区、I区
- 3 調査体制は次のとおりである。

調査主体	雲仙市教育委員会	教 育 長	鈴木 勝利
		教 育 次 長	辻 政実
		生涯学習課長	岩永 判二
		文化財班班長	柴崎 孝光
		主 査	辻田 直人
		文化財調査員	小野 綾夏
調査担当	同	主 査	江崎 亮太
		文化財調査員	山下 美郷・益田 豊明
- 4 現地での遺構・遺物の実測は進藤涼子・前田チイ・吉川 新・水谷安孝・東 文子・福田次郎・竹田将仁（別府大学）・益田・小野・山下・辻田・江崎が行い、遺物の実測は小野・山下が、トレースは早稲田一美が行った。また、図版の編集・作成は林田 崇・早稲田一美・小野・山下が行い、写真は現地調査を益田・小野・山下・辻田・江崎が、遺物写真は柳原亜矢子・小野が行った。裏表紙及び Abstract の英訳については生涯学習課 吉田奈央による。
- 5 遺構・遺物実測の一部は(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 6 自然科学分析は(株)古環境研究所に委託した。
- 7 空中写真撮影業務は(有)リモートセンシングスカイサーベイ九州に委託した。
- 8 本遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市国見神代小路歴史文化公園歴史民俗資料館で保管している。
- 9 本書で用いた方位はすべて真北であり、国土座標は世界測地系による。
- 10 現地調査および本書の刊行にあたって多くの方々からご助言いただいた、記して謝意を表します。木本雅康（長崎外国語大学）、早田 勉（(株)古環境研究所）、本田秀樹（長崎北高等学校）、渡邊康行（(株)埋蔵文化財サポートシステム）、山口勝也（(株)埋蔵文化財サポートシステム）、瑞穂史談会、竹中哲朗（諫早市役所）、織田健吾（(株)扇精光）、(株)柴崎建設、(株)順宝建設、(株)富士建設（順不同）
- 11 本書の執筆・編集は山下美郷による。

# 目 次

巻頭図版

発行にあたって

例言

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章 調査の経緯 ..... 1 p

第1節 発掘調査にいたる経緯

第2節 発掘調査の方法及び経過

第3節 遺跡の地理的・地形的環境

第2章 基本土層 ..... 5 p

第1節 各調査地点の対比

第3章 中世の遺構・遺物 ..... 8 p

第1節 道路状遺構

第2節 製鉄炉跡

第3節 竪穴状遺構

第4節 旧河川跡と出土遺物

第4章 総括 ..... 39 p

第1節 概要

第2節 まとめ

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図 (1/20,000)	
第2図	平成18年度までの調査区配置図 (1/1,500)	2
第3図	C区第1トレンチ基本土層図 (1/20)	5
第4図	D2区基本土層図 (1/20)	5
第5図	D6区基本土層図 (1/20)	7
第6図	E区道路状遺構検出状況 (1/200)	8
第7図	E区出土五輪塔配置図 (1/50、1/400)	9
第8図	E区水路遺構検出状況 (1/50)	10
第9図	E区出土土師質土器・坏 (1/20、1/3)	11
第10図	E区製鉄炉 (1/20)	12
第11図	D4区ST-1製鉄炉 (1/20)	13
第12図	D6区SK-2平面図・セクション図 (1/40)	14
第13図	D6区SK-6平面図・セクション図 (1/40)	15
第14図	D6区遺構配置図 (1/40・1/200)	16
第15図	D6区SX01平面図・セクション図 (1/20)	17
第16図	D6区SX03平面図・セクション図 (1/20)	18
第17図	D6区SX01出土土師質土器①・皿 (1/3)	19
第18図	D6区SX01出土土師質土器②・皿、坏 (1/3)	22
第19図	D6区SX01出土土師質土器③・坏 (1/3)	25
第20図	D6区SX01出土土師質土器④・坏 (1/3)	27
第21図	D6区SX03出土土師質土器①・皿 (1/3)	28
第22図	D6区SX03出土土師質土器②・坏 (1/3)	31
第23図	D6区旧河川跡出土土師質土器①・坏 (1/3)	32
第24図	D6区旧河川跡出土土師質土器②・坏、皿 (1/3)	34
第25図	C区・D区出土青磁碗 (1/3)	40

## 表 目 次

第1表	D6区出土土師質土器 (皿・坏) 観察表	36
第2表	E区出土土師質土器 (坏) 観察表	38

# 図 版 目 次

巻頭図版① 遺跡上空（D区）から有明海をのぞむ（南より）

D 6 区出土土師質土器（本文16頁～35頁）

D 6 区出土土師質土器（本文16頁～35頁）

巻頭図版② 遺跡（E区）上空写真（南東より）

D 6 区完掘状況（南より）

図版 1

遺跡上空写真（昭和35年度国土地理院）

D 6 区 SK-6 完掘状況（西より）

D 6 区旧河川跡遺物出土状況（西より）

D 6 区調査風景

図版 2

D 6 区上空写真（上が北）

D 6 区旧河川跡上空写真（上が南）

D 6 区 SK-2・6・7・8 上空写真（上が南）

E 区上空写真（上が北）

E 区道路状遺構上空写真（北半分）

E 区道路状遺構上空写真（南半分）

図版 5

D 6 区 SX01出土土師質土器（19頁第17図、22頁第18図）

図版 6

D 6 区 SX01・SX03出土土師質土器（22頁第18図、25頁第19図、27頁第20図、28頁第21図）

図版 3

D 4 区検出状況（北より）

D 4 区 ST-1 検出状況（西より）

D 4 区 ST-1 遺物出土状況（西より）

D 4 区 ST-1 完掘状況（西より）

E 区石組み土層断面状況（北より）

E 区石列・五輪塔出土状況（東より）

E 区製鉄炉出土状況（東より）

E 区遺物出土状況（東より）

図版 7

D 6 区 SX03・旧河川跡出土土師質土器（28頁第21図、31頁第22図、32頁第23図、34頁第24図）

E 区出土土師質土器（11頁第9図）

D 6 区出土土師質土器 皿

図版 8

D 6 区出土土師質土器 坏

C 区出土龍泉窯系青磁碗（40頁第25図）

D 4 区出土龍泉窯系青磁碗（40頁第25図）

D 4 区出土龍泉窯系青磁碗（40頁第25図）

D 2 区出土龍泉窯系青磁碗（40頁第25図）

D 4 区出土同安窯系青磁碗（40頁第25図）

D 2 区出土同安窯系青磁碗（40頁第25図）

図版 4

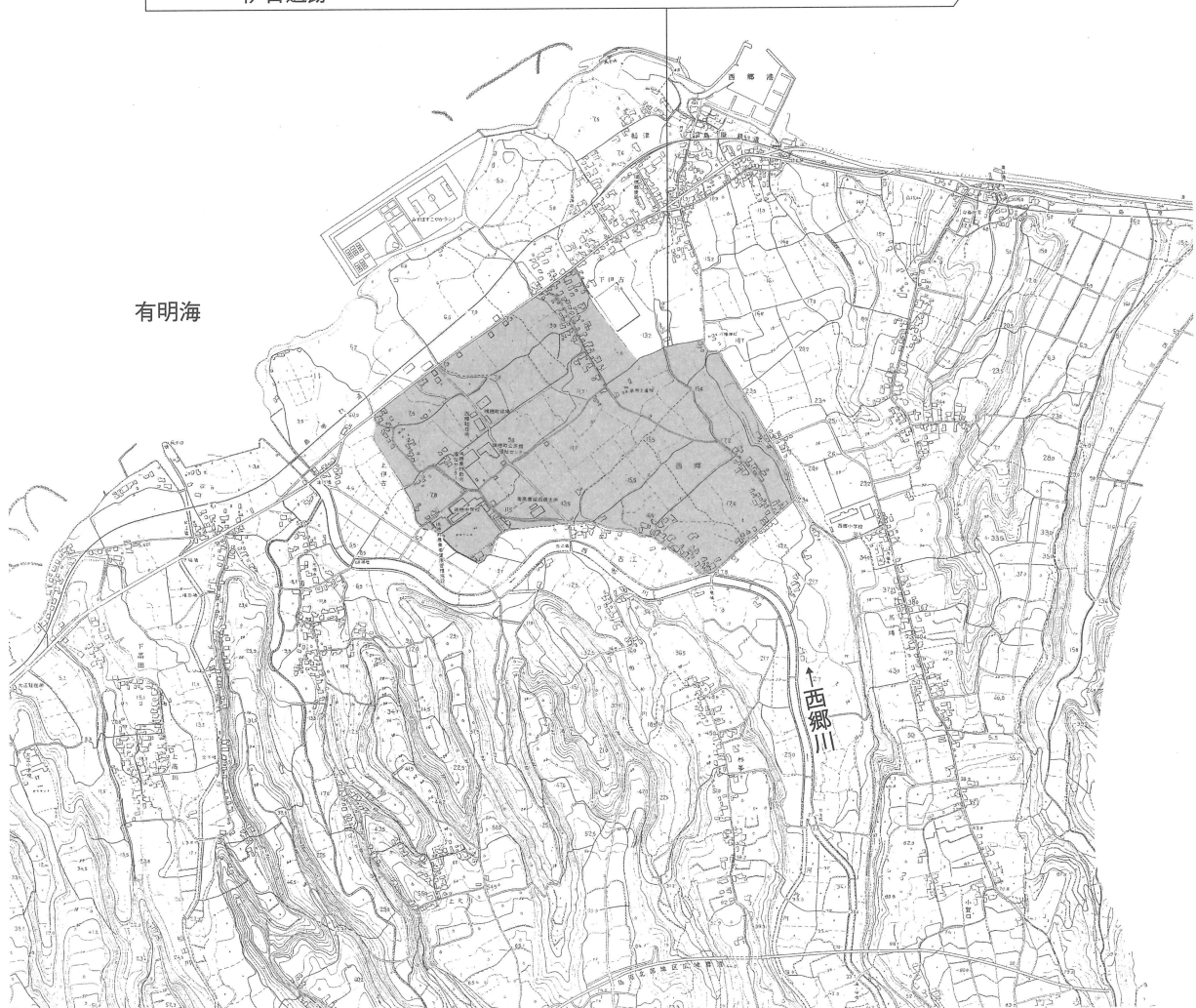
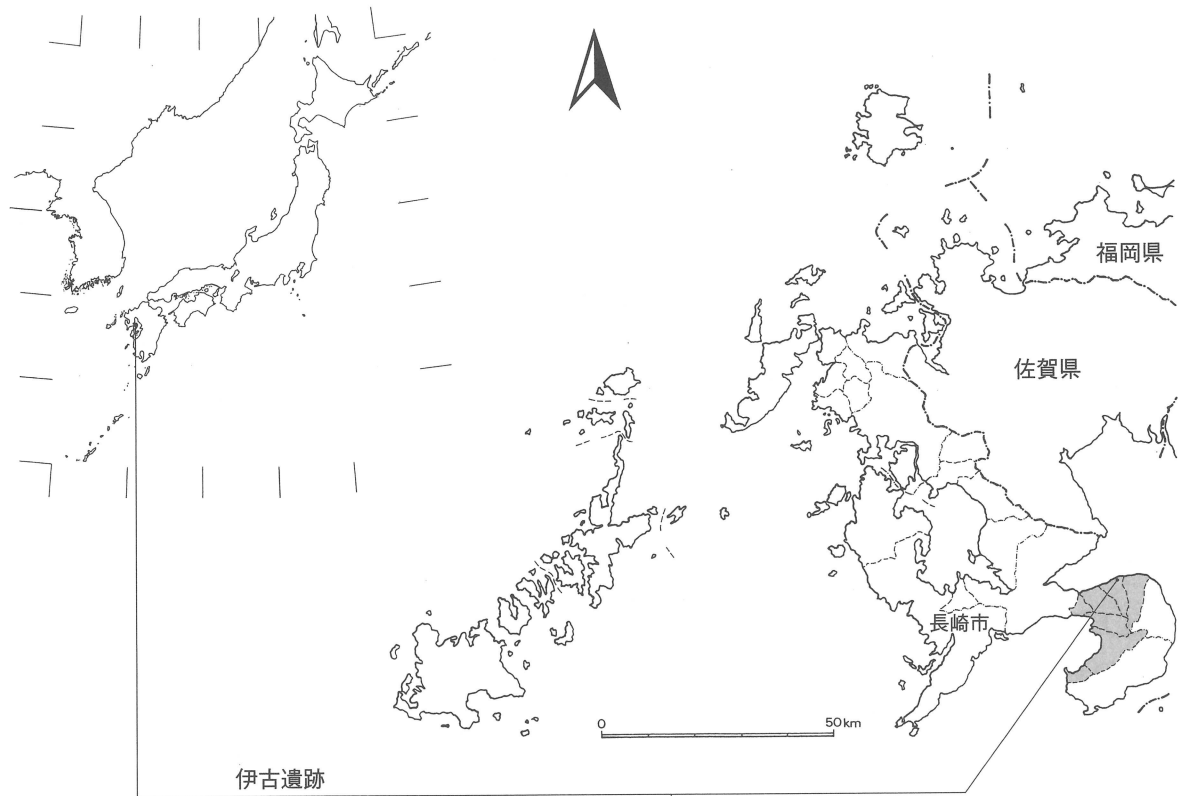
D 6 区遺構検出状況（北より）

D 6 区 SK-2 検出状況（西より）

D 6 区調査風景

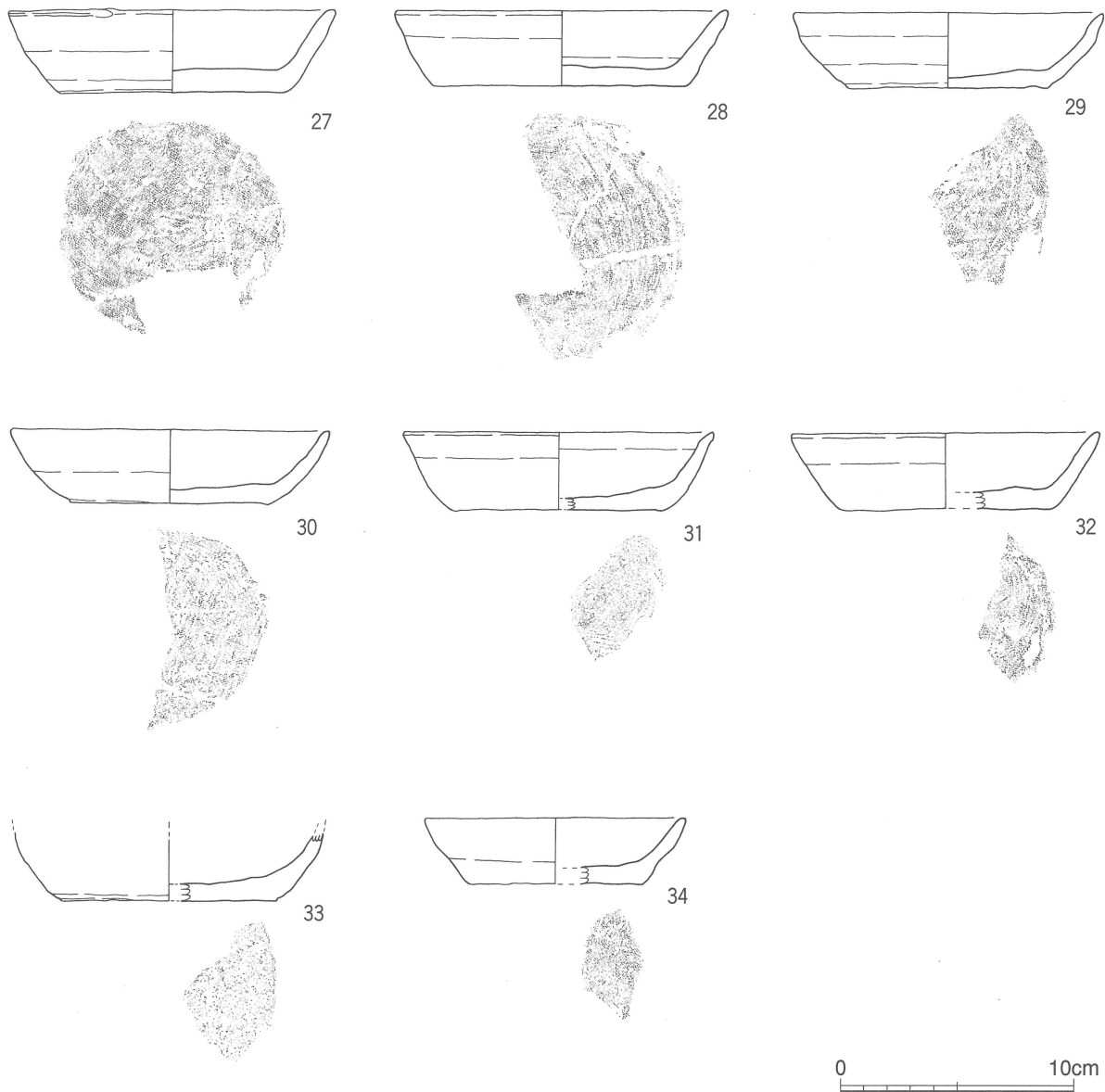
D 6 区 SK-2 掘り下げ状況（北より）

D 6 区 SK-2 完掘状況（東より）



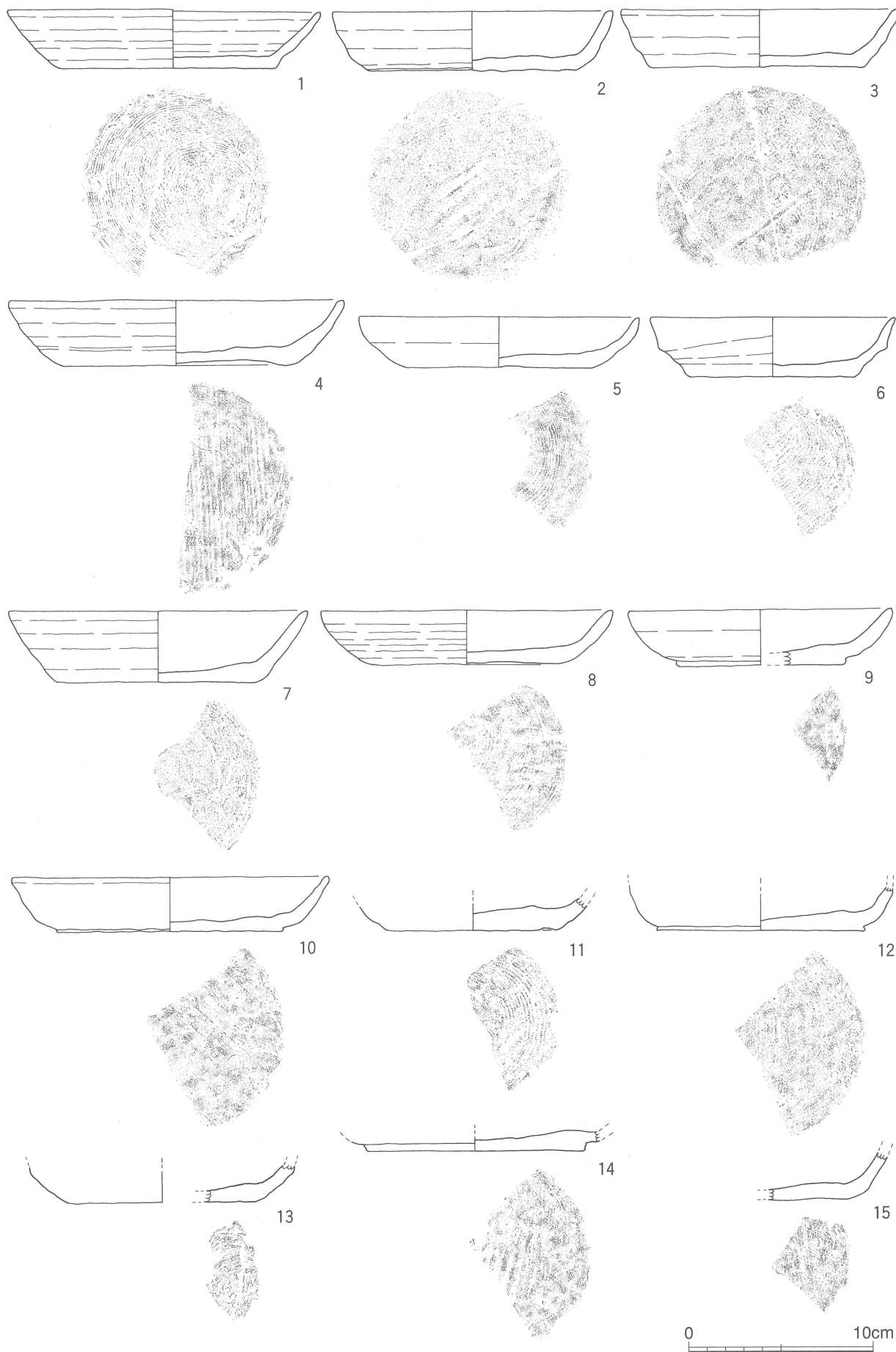
第1図 遺跡位置図 (1/20,000)





第22図 D 6 区 SX03出土土師質土器②・坏 (1/3)

底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は静止ヘラ切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。**31**は口縁部復元直径13cm、器高3.3cm、底部復元直径9cm。内外面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。口縁部上面がやや変形しているが外湾気味に口縁部がつく。底部から口縁部にかけて内湾→外湾する。底部外面は静止ヘラ切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。**32**は口縁部復元直径13cm、器高3.2cm、底部復元直径9cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から外湾しながらやや直線的に引き上げる。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は静止ヘラ切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。**33**は器高約2.9cm、底部復元直径9cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から内湾する。底部外面は静止ヘラ切り離しを施す。**34**は口縁部復元直径11cm、器高2.8cm、底部復元直径7.4cm。内面に回転利用の横ナデ調整後、指ナデ調整がみられる。外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。体部に段がつく。底部から口縁部にかけて外湾→内湾する。底部外面は静止ヘラ切り離しを施す。

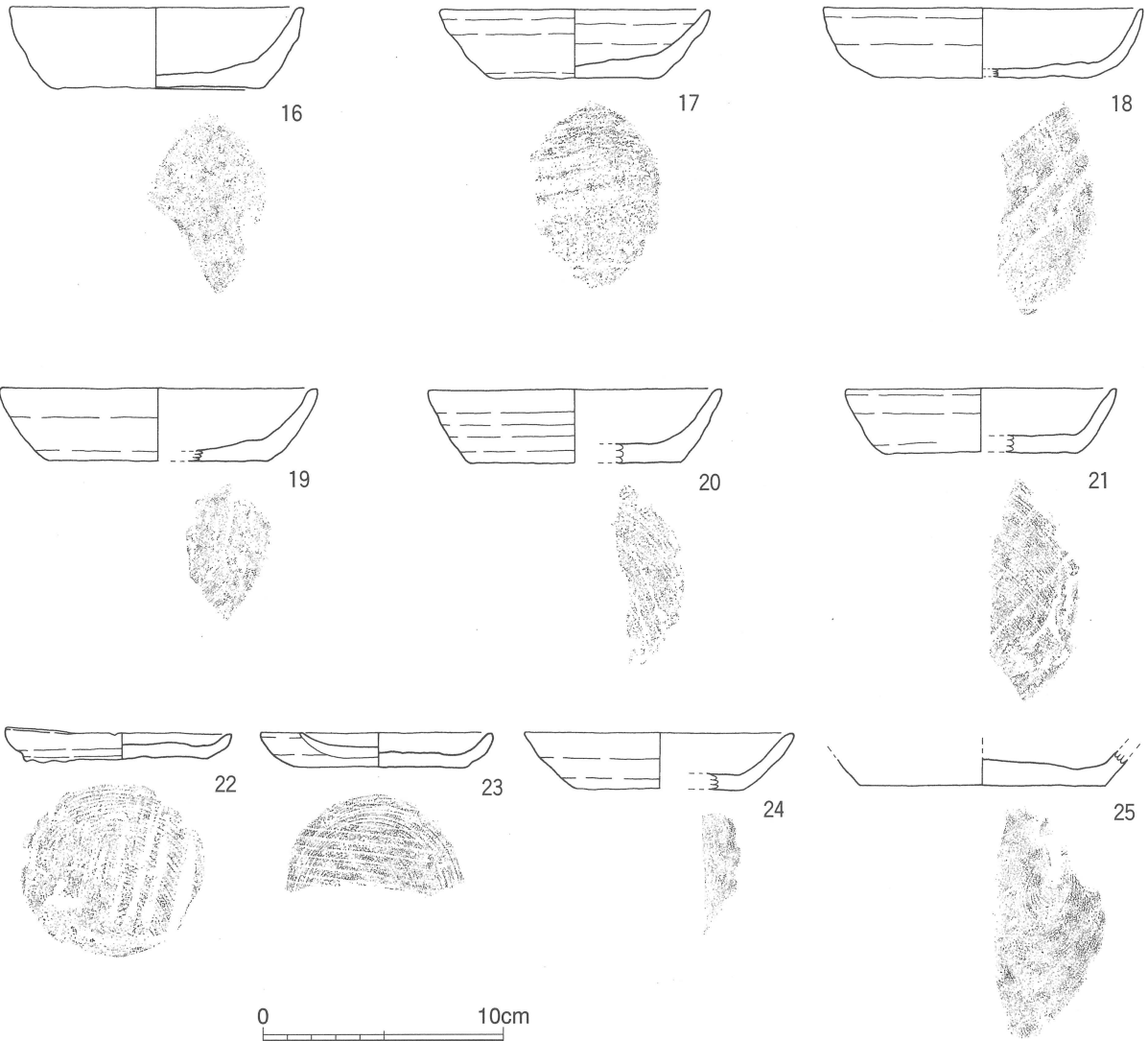


第23图 D 6 区旧河川跡出土土師質土器①・坏 (1 / 3)

## 旧河川跡内の出土遺物（土師質土器）

第23・24図は土師質土器の小皿・坏の資料である。1～21・24・25は土師質土器の坏である。

1は口径15.8cm、器高3.2cm、底径10.5cm。内外面に回転利用した横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。底部から外湾→内湾→外湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸とハケメ状整形痕が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、ヘラで調整を施す。2は口縁部復元直径15cm、器高3.2cm、底部復元直径11cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。口縁部の形態がやや楕円の不整形である。底部から外湾→内湾する。底部内面にはナデ調整及び切り離しによる凹凸が観察できる。底部外面はやや静止気味のヘラ切り離しを施す。3は口径14.8cm、器高3.1cm、底径11.4cm。内外面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。底部から外湾→内湾→外湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用したヘラ切り離しを施す。4は口縁部復元直径18cm、器高3.5cm、底部復元直径11.8cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から外湾→内湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用したヘラ切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。5は口縁部復元直径15cm、器高2.7cm、底部復元直径10cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から口縁部にかけて外湾→内湾する。内面はやや開き気味に引き上げている。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、木目を利用したハケメ状整形とナデ調整を施す。6は口縁部復元直径13cm、器高3.2cm、底部復元直径9.8cm。内外面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。胴部にナデ調整による凹凸がみられる。底部から外湾→内湾→外湾→内湾→外湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、ヘラ調整がみられる。7は口縁部復元直径16cm、器高3.8cm、底部復元直径10.4cm。内外面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。底部から外湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、ナデ調整を施す。8は口縁部復元直径15.6cm、器高2.8cm、底部復元直径10.4cm。内外面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。外面は内面よりハケメの幅が広く3～4mmと間隔があるのに対し、内面のハケメはきめ細かい。底部から外湾→内湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸と木目利用のハケメ状整形痕が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離しを施す。9は口縁部復元直径14cm、器高3cm、底部復元直径8.8cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から口縁部にかけて外湾→内湾する。底部外面は静止ヘラ切り離しを施す。10は口縁部復元直径17cm、器高2.9cm、底部復元直径12cm。内面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から内湾する。器壁が薄く、底部外面は静止ヘラ切り離しを施す。11は器高約1.7cm、底部復元直径8.8cm。内外面に回転を利用した横ナデ調整がみられる。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、ナデ調整を施す。12は器高約2.4cm、底部復元直径11cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。特に内面は強く痕が残っている。底部内面には指ナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は静止糸切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。13は器高約1.9cm、底部復元直径2.8cm。内面に回転利用の横ナデ調整がみられ、外面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、ナデ調整を施す。14は器高約1.1cm、底部復元直径11.6cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部内面には指ナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面はやや静止気味のヘラ切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。15は器高約2.6cm、底部復元直径8.2cm。内外面に回転利用の横ナデ調整を施す。底部内面には指ナデ調整



第24図 D6区旧河川跡出土土師質土器②・坏、皿（1/3）

による凹凸が観察できる。底部外面は静止ヘラ切り離しを施す。

16は口縁部復元直径12cm、器高3.3cm、底部復元直径8.8cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。器全体に指頭圧痕がみられる。底部から外湾→内湾→外湾→内湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は静止ヘラ切り離し後、指ナデ調整による指頭圧痕がみられる。

17は口縁部復元直径11cm、器高2.8cm、底部復元直径7cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から外湾→内湾→外湾する。底部外面は回転を利用した糸切り離し後、ヘラ調整がみられる。

18は口縁部復元直径13cm、器高2.8cm、底部復元直径8.2cm。内面に回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から内湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。器壁が薄く、底部外面はやや静止気味のヘラ切り離しを施す。

19は口縁部復元直径13cm、器高3cm、底部復元直径3.3cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から口縁部にかけて外湾→内湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸と木目利用のハケメ状整形痕がみられる。底部外面は回転を利用した糸切り離し後、ヘラ調整を施す。

20は口縁部復元直径12cm、器高3cm、底部復元直径2.6cm。内外面は回転利用の横ナデ調整後、木目利用のハケメ状整形痕がみられる。底部から外湾し、やや直線的に引き上げている。底部外面は回転を利用した

ヘラ切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。21は口縁部復元直径11cm、器高2.6cm、底部復元直径6.2cm。内外面は回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から外湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は静止糸切り離した後、指ナデ調整による指頭圧痕がみられる。

22・23は土師質土器の小皿である。22は口径9.3cm、器高1.1cm、底径7.5cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から外湾→内湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、ヘラ調整がみられる。23は口径9.5cm、器高1.4cm、底径7cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から口縁部にかけて外湾→内湾する。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、木目を利用したハケメ状整形を施す。ハケメ幅は3mm、4mm、3mm、4mmと均一であり、平行している。24は口縁部復元直径11cm、器高2.3cm、底部復元直径1.4cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部から外湾→内湾→外湾する。底部外面は回転を利用したヘラ切り離しを施す。25は器高約1.4cm、底部復元直径10cm。内外面に回転利用の横ナデ調整がみられる。底部内面にはナデ調整による凹凸が観察できる。底部外面は回転を利用した糸切り離した後、ナデ調整を施す。

#### 【参考文献】

- 中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社  
小野真一 1982『祭祀遺跡』考古学ライブラリー10 ニューサイエンス社  
玉口時雄・小金井靖 1984『基礎の考古学 改訂新版 土師器・須恵器の知識』東京美術  
高野晋司 1998「第Ⅲ章遺構と遺物 第2節遺物 5. 土師質土器」『沖城跡』  
長崎県文化財調査報告書 第143集 長崎県教育委員会  
秀島貞康 2000「第Ⅲ章遺物 3. 土師質土器」『沖城跡』(川瀬雄一・秀島貞康・古賀 力編)  
諫早市文化財調査報告書第14集 諫早市教育委員会  
宮崎貴夫 1986「第一章Ⅲ遺物 7. 歴史時代土器・陶磁器・滑石製容器 (3)国産陶器・土器 C. 土師質土器」第二章総括 Ⅲ歴史時代の土器・陶磁器、滑石製容器について 3. 土師質坏・小皿の法量について」『今福遺跡Ⅲ』(町田利幸・宮崎貴夫編)長崎県文化財調査報告書 第84集 長崎県教育委員会  
川畑敏則 1988「Ⅲ調査 3出土遺物 (1)中世の遺構と遺物」『岡遺跡』(安楽 勉・川畑敏則編)  
東彼杵町文化財調査報告書 第2集 長崎県東彼杵町教育委員会  
中田敦之 1985「Ⅳ歴史時代 2中世の遺物 (3)国内産の遺物 土師器」『楼厓田遺跡』(安楽 勉・中田敦之編)長崎県文化財調査報告書 第76集 長崎県教育委員会 松浦市教育委員会  
竹中哲朗 2003「第7章中世 第3節古代から中世の特徴的な遺物」『石原遺跡・矢房遺跡』(辻田直人・竹中哲朗編)国見町文化財調査報告書(概報)第3集 長崎県国見町教育委員会  
竹中哲朗 2004「第9章まとめ 第2節土師器の分析」『十園遺跡』(辻田直人・竹中哲朗編)  
国見町文化財調査報告書(概報)第4集 長崎県国見町教育委員会  
辻田直人 2001.12「国見町矢房遺跡一括出土遺物について—国見町発掘調査より—」『西海考古』第4号  
西海考古同人会  
塩地潤一 1998.10「大友領国内における京都系土師器の分析とその背景」『法哈噠』第6号 博多研究会

第1表 D6区出土土師質土器(皿・坏) 観察表

単位: cm, ( ) 復元径

図	番号	遺構・番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	備考
17図 ~ 20図	1	SX01	皿	8.7	1.7	6.9	雲母、角閃石	橙(Hue5YR6/8)	
	2		皿	8.7	1.7	6.2	雲母、角閃石	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
	3		皿	8.7	1.6	6.8	雲母、角閃石	橙(Hue5YR7/6)	
	4		皿	8.4	1.4	6.7	雲母、角閃石	黄橙(Hue7.5YR7/8)	
	5		皿	8.4	2	6.5	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	6		皿	8	1.8	5.8	雲母、角閃石、白色粒子	橙(Hue5YR6/6)	
	7		皿	8.4	1.9	6.5	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	8		皿	7.8	1.7	5.4	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue5YR7/4)	
	9		皿	7.7	1.5	5.6	角閃石、石英?	にぶい橙(Hue7.5YR7/3)	
	10		皿	8.2	1.8	5.8	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	11		皿	8.7	1.8	7.2	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue5YR6/8)	
	12		皿	8	2	6.5	雲母、角閃石	橙(Hue5YR6/8)	
	13		皿	8	1.7	6.4	雲母、角閃石	橙(Hue5YR6/8)	
	14		皿	8.4	2	6.2	雲母、角閃石	橙(Hue5YR6/8)	
	15		皿	8	1.6	6	雲母、角閃石、石英	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
	16		皿	8.4	1.9	5.9	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue5YR7/6)	
	17		皿	8.7	1.8	6.9	雲母、角閃石	橙(Hue5YR7/6)	
	18		皿	8.2	1.7	5.8	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	19		皿	8	1.4	6	雲母、角閃石、石英	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	20		皿	(8)	1.8	(5.4)	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	21		皿	(8)	1.4	(5.6)	雲母、石英、角閃石、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
	22		皿	(8.6)	1.6	(7.2)	雲母、角閃石、橙色粒子	黄橙(Hue7.5YR7/8)	
	23		皿	(9)	1.7	(7)	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue5YR7/8)	
	24		皿	(8)	1.5	(6.2)	雲母、角閃石	橙(Hue5YR7/8)	
	25		皿	(7.6)	1.7	(6)	雲母、角閃石、赤橙色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	26		皿	(8)	1.6	(6.6)	雲母、角閃石	橙(Hue5YR6/8)	
	27		皿	(8)	1.7	(5.8)	白色粒子、石英	橙(Hue5YR6/6)	
	28		皿	(8)	2.2	(5.6)	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	29		皿	(8)	1.8	(6)	雲母、角閃石、赤橙色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	30		皿	(7)	1.8	(4.8)	雲母、赤橙色粒子、小礫	にぶい橙(Hue5YR7/4)	
	31		皿	?	1.2~	5.6	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/3)	
	32		皿	?	?	?	雲母、角閃石、石英、赤色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	33		皿	?	?	?	雲母、角閃石、赤橙色粒子、白色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	34		皿	?	?	?	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR6/4)	
	35		皿	?	?	?	雲母、角閃石	橙(Hue7.5YR6/8)	
	36		皿	?	?	?	雲母、角閃石、赤色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	37		皿	8.3	1.7	6	雲母、石英	橙(Hue5YR7/6)	
	38		皿	8.2	1.6	6	雲母、角閃石	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	39		皿	8.6	2	6.4	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	40		皿	8.6	1.6	6.8	雲母、石英、角閃石	橙(Hue5YR7/6)	
	41		皿	(10)	1.7	(7.6)	石英、雲母、赤褐色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	42		皿	(9)	1.2	(6.8)	雲母、角閃石、白色粒子、赤褐色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	43		皿	?	1.4~	(6)	雲母、角閃石、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
	44		皿	(8)	1.9	(5.6)	雲母、石英、赤色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/4)	
	45		皿	(8.4)	1.7	(6.8)	雲母、石英、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	46		皿	(8.4)	1.6~	(6.7)	雲母、角閃石	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)	
	47		皿	(8)	1.3	(6)	雲母、角閃石	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)	
	48		皿	(8)	1.4	(5)	角閃石、雲母、石英、赤褐色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
	49		皿	(8)	2.1	(5.6)	雲母、角閃石、赤色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	50		皿	?	1.5~	6.8	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	51		皿	(7)	1.4	(5.4)	雲母、角閃石、橙色粒子	橙(Hue5YR6/8)	
	52		皿	(6)	1.4	(4.4)	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue5YR6/8)	
	53		皿	(8)	1.5	(6)	雲母、石英、角閃石、白色粒子	にぶい橙(Hue5YR7/3)	
	54		皿	7.8	1.4	5.4	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	

第1表 D6区出土土師質土器(皿・坏)観察表

単位: cm, ( ) 復元径

図	番号	遺構・番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	備考
17図 ~ 20図	55	SX01	皿	(8)	1.4	6	雲母、角閃石、石英、白色粒子、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	56		皿	(8)	1.5	(5.6)	雲母、角閃石、赤色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	57		皿	(7.4)	1.8	(5.2)	雲母、白色粒子、角閃石	橙(Hue7.5YR7/6)	
	58		皿	?	1.6	?	雲母、角閃石、石英、赤色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	59		皿	(7)	1.3	?	雲母、角閃石、石英、赤色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	60		皿	?	?	?	雲母、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	61		皿	?	?	?	雲母、角閃石、赤色粒子	淡橙(Hue5YR8/4)	
	62		坏	12	3.2	7.8	雲母、角閃石、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	63		坏	(14)	3.3	(9)	雲母、石英、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)	
	64		坏	?	1.4~	(9.4)	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	65		坏	?	1.6	(8.8)	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	66		坏	12.3	3	8.4	雲母、角閃石、白色粒子、赤橙色粒子	橙(Hue5YR7/6)	
	67		坏	11.2	3.2	8.4	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	68		坏	?	1.3~	(8.8)	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	69		坏	?	?	?	雲母、角閃石、白色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	70		坏	?	?	?	雲母、赤褐色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/4)	
	71		坏	?	?	?	雲母、角閃石、赤橙色粒子、白色粒子	橙(Hue7.5YR6/6)	
	72		坏	13.6~	3.2	8.8	雲母、角閃石	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
	73		坏	13.7	3.7	9.3	雲母、角閃石、石英	橙(Hue7.5YR7/6)	
	74		坏	12.8	3.2	8	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	75		坏	13.2	3.4	9.7	雲母、角閃石、白色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	76		坏	13.2	3.1	8.2	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	77		坏	13.4	3.5	9.2	雲母、角閃石、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	78		坏	12.4	2.8	8.5	雲母、角閃石	橙(Hue5YR7/8)	
	79		坏	13	3.3	8.2	雲母、角閃石	黄橙(Hue7.5YR7/8)	
	80		坏	12	2.8	8.4	雲母、角閃石、赤橙色粒子、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	81		坏	(13.6)	2.8	(8.5)	雲母、角閃石	橙(Hue5YR6/8)	
	82		坏	12.3	3.4	8.7	角閃石、雲母、橙色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	83		坏	(12.2)	4	(8.2)	雲母、角閃石、橙色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	84		坏	?	1.6~	8.7	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue5YR6/8)	
	85		坏	(10)	3.7	(6.4)	角閃石、雲母、橙色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
	86		坏	(10)	3.6	(5.6)	雲母、角閃石、赤橙色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR6/4)	
87	坏	?	1.7~	(9)	雲母、角閃石	にぶい橙(Hue7.5YR7/3)			
88	坏	?	1.1~	7.7	雲母、角閃石、赤褐色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)			
89	坏	?	1.2~	(7.6)	雲母、角閃石、橙色粒子	橙(Hue7.5YR6/6)			
90	坏	?	0.9~	?	雲母、角閃石、赤褐色粒子	黄橙(Hue7.5YR7/8)			
91	坏	?	1.2~	?	雲母、石英、角閃石	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
92	坏	(13)	2.8	?	雲母、角閃石、白色粒子、赤色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
93	坏	?	3	?	雲母、角閃石、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
94	坏	?	1.2~	?	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	橙(Hue7.5YR6/6)			
95	坏	?	2.1~	?	雲母、角閃石	橙(Hue7.5YR7/6)			
96	坏	?	?	?	雲母、角閃石	橙(Hue7.5YR7/6)			
97	坏	?	?	?	雲母、角閃石、白色粒子、赤橙色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR6/4)			
98	坏	?	?	?	雲母、角閃石	橙(Hue5YR6/6)			
21図 ~ 22図	1	SX03	皿	8	2.1	6.3	角閃石、石英、赤色粒子、金雲母	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	2		皿	8.7	1.8	6.7	雲母、角閃石、橙色粒子、小礫	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)・褐灰(Hue7.5YR5/1)	注口アリ
	3		皿	7.6	1.5	6.2	角閃石、石英、赤色粒子、黒色粒子、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)・にぶい橙(Hue5YR7/4)	
	4		皿	(8)	1.6	5.7	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)	
	5		皿	8	1.4	5.6	白色粒子	淡橙(Hue5YR8/4)	
	6		皿	8.2	1.5	6.2	雲母、橙色粒子、角閃石、小礫、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	
	7		皿	7.8	2	6.4	角閃石、石英、赤色粒子、白色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/3)・橙(Hue2.5YR6/8)	
	8		皿	8.2	2	5.8	角閃石、雲母、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
	9		皿	8.3	1.7	6.1	雲母、白色粒子、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)・橙(Hue2.5YR6/8)	
	10		皿	8.2	1.6	5.5	雲母、白色粒子、角閃石、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)	

第1表 D6区出土土師質土器(皿・坏) 観察表

単位: cm, ( ) 復元径

図	番号	遺構・番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	備考		
21図 ・ 22図	11	SX03	皿	8.6	1.8	6.3	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)			
	12		皿	9	1.7	6.8	雲母、角閃石、白色粒子、橙色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)			
	13		皿	8.4	1.3	6.5	角閃石、雲母、橙色粒子、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)			
	14		皿	8.4	1.6	6	雲母、白色粒子、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)・橙(Hue5YR6/6)			
	15		皿	(7.4)	1.4	5.4	雲母、石英、橙色粒子、角閃石	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
	16		皿	(8.6)	1.4	6.2	角閃石、雲母、白色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)			
	17		皿	(7.6)	1.3	6	角閃石、石英、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
	18		皿	(8)	1.5	(6)	雲母、角閃石、白色粒子、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
	19		皿	(7.4)	1.8	(5.4)	雲母、角閃石、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
	20		皿	(8)	1.8	(5.8)	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)			
	21		皿	(9.6)	1.5	(8)	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)			
	22		皿	(8)	1.6	(6.3)	雲母、角閃石、白色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/3)			
	23		皿	(8.4)	1.5	(6.4)	雲母、角閃石、石英、小礫	浅黄橙(Hue10YR8/3)			
	24		皿	(7.4)	1.2	5.8	雲母、白色粒子、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)			
	25		皿	(8)	2.2	5.8	雲母、白色粒子、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/3)			
	26		皿	(6.6)	1.6	(5)	雲母、橙色粒子、白色粒子	淡橙(Hue5YR8/4)・浅黄橙(Hue10YR8/4)			
	27		坏	13.7	3.5	9.6	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)・浅黄橙(Hue10YR8/4)			
	28		坏	14	3.2	10.6	雲母、角閃石、橙色粒子、小礫、白色粒子	橙(Hue5YR7/6)			
	29		坏	(13)	3.2	(8.4)	角閃石、雲母、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)			
	30		坏	(13.4)	3.1	8.4	角閃石、雲母、白色粒子、橙色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)			
	31		坏	(13)	3.3	(9)	雲母、角閃石、白色粒子、小礫	にぶい橙(Hue7.5YR6/4)			
	32		坏	(13)	3.2	(9)	雲母、角閃石、橙色粒子、白色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)			
	33		坏	?	2.9~	(9)	雲母、角閃石、白色粒子、橙色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)			
	34		坏	(11)	2.8	(7.4)	雲母、角閃石、白色粒子、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
	23図 ・ 24図		1	旧河川堆積	坏	15.8	3.2	10.5	橙色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/4)	
			2		坏	(15)	3.2	(11)	雲母、石英、角閃石、白色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/4)	
			3		坏	14.8	3.1	11.4	雲母、角閃石、石英、白色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/4)	
			4		坏	(18)	3.5	(11.8)	石英、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/4)	
			5		坏	(15)	2.7	(10)	雲母、赤色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/4)	
			6		坏	(13)	3.2	(9.8)	角閃石、雲母、白色粒子	にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	
			7		坏	(16)	3.8	(10.4)	雲母、角閃石、白色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/3)	
			8		坏	(15.6)	2.8	(10.4)	白色粒子、赤橙色粒子	黄橙(Hue10YR8/6)	
			9		坏	(14)	3	(8.8)	雲母、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/4)	
			10		坏	(17)	2.9	(12)	雲母、石英、白色粒子、橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)	
11		坏	?		1.7~	(8.8)	雲母、角閃石、白色粒子、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)			
12		坏	?		2.4~	(11)	雲母、白色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/3)			
13		坏	?		1.9~	(2.8)	雲母、角閃石、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)			
14		坏	?		1.1~	(11.6)	雲母、石英、白色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/4)			
15		坏	?		2.6~	(8.2)	石英、白色粒子、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
16		坏	(12)		3.3	(8.8)	雲母、白色粒子、赤橙色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/4)			
17		坏	(11)		2.8	(7)	雲母、角閃石、石英、白色粒子	明黄褐(Hue10YR7/6)			
18		坏	(13)		2.8	(8.2)	雲母、石英、白色粒子	浅黄橙(Hue7.5YR8/6)			
19		坏	(13)		3	(3.3)	雲母、白色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR6/3)			
20		坏	(12)		3	(2.6)	雲母、角閃石、橙色粒子	橙(Hue7.5YR7/6)			
21		坏	(11)		2.6	(6.2)	角閃石、白色粒子、雲母、石英	にぶい黄橙(Hue10YR7/4)			
22		坏	9.3		1.1	7.5	雲母、角閃石、白色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/4)			
23		坏	9.5		1.4	7	雲母、白色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/3)			
24		坏	(11)		2.3	(1.4)	雲母、石英、白色粒子	灰黄褐(Hue10YR6/2)			
25		坏	?		1.4~	(10)	雲母、白色粒子	浅黄橙(Hue10YR8/4)			

第2表 E区出土土師質土器(坏) 観察表

単位: cm, ( ) 復元径

図	番号	遺構・番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	備考
9図	1		坏	11.6	3.4	6.6	角閃石、雲母、白色粒子	にぶい黄橙(Hue10YR7/3)・黒(Hue10YR7/1)・にぶい黄橙(Hue10YR7/3)	
	2		坏	11.2	3	6	角閃石、雲母、白色粒子、橙色粒子	橙(Hue5YR6/8)・黒(Hue10YR1.7/1)・にぶい褐(Hue7.5YR5/3)	



## 第4章 総括

### 第1節 概要

今回報告してきた伊古遺跡は、長崎県の南部島原半島の北麓に位置する、雲仙普賢岳を中心とした火山性扇状地を緩やかに延びる舌状丘陵地と扇状地上に広がった、標高14m～20mの場所に占地する。

第1章調査の経緯の項で記したように、今回の調査区域は県営圃場整備事業に伴う発掘調査であり、遺跡内における、道路及び用排水路建設のために遺跡が破壊される部分について調査を実施した。その結果、縄文時代草創期～中世までの遺構・遺物が確認された。今回は中世についての概報であるが、各寺代について特徴的な事柄を示す。

縄文時代については、後世の開発や耕作土造成による削平を受けているが、C区第一トレンチの、舌状丘陵崖下のD2区から細石器が検出され、D2区では土器との共伴が見られる。出土石器は細石核49点、細石刃300点以上、細石刃剥離第一スポール多数、石斧、抉入状の搔器1点が出土している。土器は細片で数点であるが、開地遺跡での共伴関係は貴重な資料となる。細石核は典型的な西海技法によるものや百花台・魚洗川遺跡群に見られる阿蘇4火砕流起源の小原石素材とするものなど様まで、不定形の剥片を素材とするもの、「泉福寺10層類型」に類するものなどバリエーションに富んでおり細石器文化期終末の様相をあらわしているものと考えられる。

弥生時代については、D区全体の旧河川跡より、弥生時代の甕・壺・高坏などの破片や大型蛤刃石斧、黒曜石、小型仿製鏡が出土している。いずれも包含層や遺構には伴っておらず、流れ込みによるものである。F区には肥後系甕棺が3基出土している。形態は熊本市黒髪二丁目出土の土器を標式とする弥生時代中期の甕棺と類似する。近年、阿蘇郡西原村の谷頭遺跡・菊池郡大津町の矢護川日向遺跡・宇土郡三角町の文蔵貝塚などの調査によって、器種のセット関係や器形の時間的な変化も明らかになり、北部九州の弥生中期中葉に位置付けられる丹塗りの土器も伴出したとある。本遺跡の甕棺出土地点から近接する風倒木痕から、同じく北部九州系の丹塗りの土器が出土した。この土器が中期に当てはまるかは未だ検討中であるが、器種のセット関係が同じ状況であることは否めない。遺構は、甕棺が出土した土坑墓と建物の跡と思われるPit群、V字形の環濠と思われる溝、木製品水漬遺構（ウッドサークル）が検出されている。

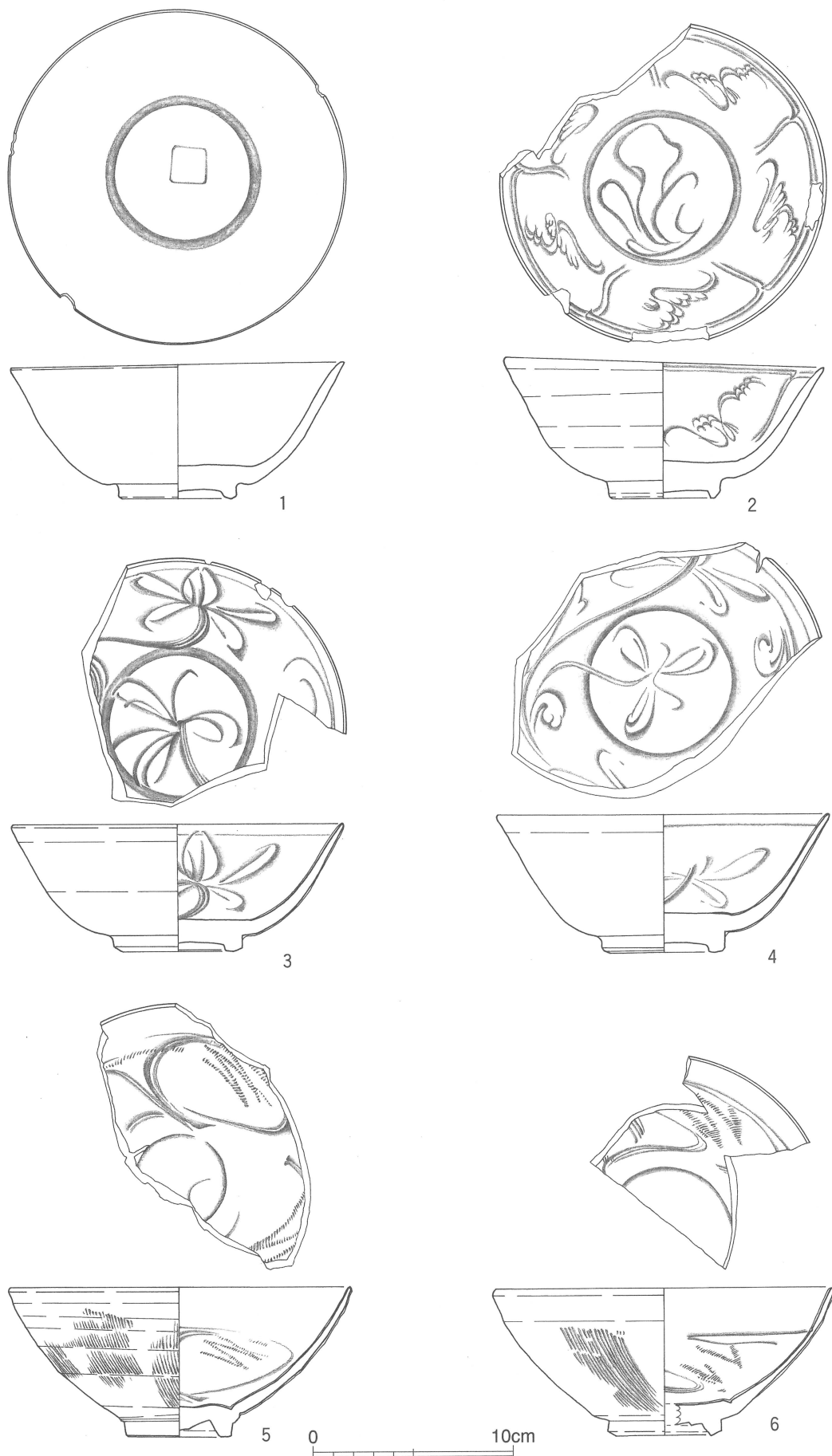
古墳時代については、遺構・包含層は伴っておらず、D区以外の旧河川跡やE区より須恵器の坏や蓋・甕の破片、土師器の高坏片、古墳時代後期と思われる銀環、管玉などが出土している。装飾品は多いが、それに付随する埋葬施設や遺構は発見されていない。

奈良・平安時代については、貴族・役人の帯飾りである、丸軋の破片が出土している。遺構・包含層は伴っておらず、古代についても流れ込みによる遺物の出土である。

### 第2節 まとめ

#### —中世の遺構・遺物について—

今回の概報の主体は、遺物の種別・形態・器種からして11世紀～16世紀の範疇に当てはまる。遺物は、国産の石製品・土器・陶磁器では、石鍋・土師質土器・瓦器椀・緑釉陶器・灰釉陶器、輸入陶磁器では、唐～宋代にかけて発達した龍泉窯系青磁・同安窯系青磁が出土している。輸入陶磁器の多くが遺構とは伴っておらず、包含層からの出土であったが、C区の中世土坑墓からは内面見込みに刻印が施される龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1類（森田 勉、12世紀後半～13世紀前半）の完形品が出土している。また、国産の石製品・土器・陶磁器では、石鍋が初源形態である、断面長方形瘤状把手を施した石鍋



第25图 C区·D区出土青磁碗(1/3)

Ⅱ-a-1類（木戸雅寿、11世紀）から断面三角形鏝のある石鍋Ⅲ-d類（木戸雅寿、14世紀末）までの形態が見受けられた。土師質土器は、今回分類を詳しく行っておらず、時期が不明であるが、今福遺跡のⅡ期（12世紀中頃～13世紀前葉）、Ⅲa期（13世紀中頃～13世紀末）、Ⅲb期（14世紀初頭～14世紀中頃）、Ⅴ期（15世紀後半～16世紀中頃）の小皿の形態に似ている坏など各時期に当てはまる土師質土器の皿・坏が出土されている。瓦器碗は、11世紀中葉に出現し、14世紀中葉まで約300年間生産された。北部九州は1984年に森田によって筑前タイプ、豊前タイプ、肥後タイプの名称が提唱され、1992年に森隆が成形手法や器面調整手法の差異に基づいて筑紫型、豊前型、肥後型、肥前南部型の4つの地域型に再整理されている。本遺跡出土の瓦器碗の技法形態は、肥後型の比較的古い、外面に回転ヘラケズリを行った後、水平方向に密なヘラミガキが施されるものと一致している。まだ詳細は不明であるが、伊古遺跡は肥後北部と隣接している地域であり、船による交流があってもおかしくはないと示唆できる。以上、遺物についての簡略な検討を行ってみたが、整理が及ばず今回は土師質土器と青磁碗の一部しか載せていない。次回さらなる分析と訂正をふまえた上で、再検討を行ってきたい。遺構は、製鉄炉2基と製鉄関連遺構、道路状遺構、竪穴状遺構、柱穴が検出された。道路状遺構は調査区域を主に南北に縦断し、途中東へ屈曲するまでの広範囲で検出され、長さ約78mにもおよぶ。類例は、松浦市の楼楷田遺跡で長さ130mの石敷道路状遺構が確認され、島原半島内でも南麓に位置する今福遺跡からも石敷の道路と考えられる遺構が検出されている。柱穴は無数検出されたが、建物としての復原は望めなかった。しかし、これだけ多くの量の遺構・遺物が確認された事は、縄文時代から中世に至るまでの人々の暮らしがここに存在していたわけであり、集落や工人集団の居住も認められることが想定できよう。中世においては、西郷氏や有馬の家臣の居城も近くに点在し、密接な関係を持っていたことも考えられる。

#### 一青磁碗について一

本遺跡で出土した輸入陶磁器は白磁と青磁である。ここでは青磁の一部を紹介したい。今回取り上げた青磁は全部で6点である。龍泉窯系青磁碗と同安窯系青磁碗の2種類が出土している（第25図、40頁）。1～4までは龍泉窯系で、5・6は同安窯系である。

1はC区中世土坑墓からの出土で、口径16.4cm、器高6.75cm、底径5.85cm。内外面ともに劃花文、鎗蓮弁文等はみられない。内面の見込みは刻印が施される。印字は実測不可能であったが、文字の一部から「金玉満堂」の可能性が高い。色調は内面、外面ともにオリブ黄色、オリブ灰色である。口縁部を外反させる龍泉窯系青磁無文碗である。残存状況は完形品である。2は口径15.7cm、器高7.15cm、底径5.2cm。内面・見込みに文様が施される。内面は6つに区画帯を設け、雲気文を施す。各文様はほとんど一筆がきである。見込みは花文であるが、省略した表現となっている。色調は内面、外面ともにオリブ灰色である。口縁部を外反させる龍泉窯系青磁劃花雲気文碗である。残存状況はほぼ完形品である。3は口径16.4cm、器高6.3cm、底径6.4cm。内面・見込みに花文が施される。片彫りで花文は刻まれ、内面は5ヵ所に花文が存在した可能性が高い。色調は内面、外面ともにオリブ灰色である。口縁部を外反させる龍泉窯系青磁劃花文碗である。残存状況は約1/3である。4は口径16.4cm、器高6.85cm、底径6.05cm。3同様、内面・見込みに花文が認められる。内面は5ヶ所に花文が存在した可能性が高い。花文は片彫りで刻まれる。一筆がきの状態で刻まれた状況である。色調は内面、外面ともにオリブ灰色である。口縁部を外反させる龍泉窯系青磁劃花文碗である。残存状況は3/4である。5は口径16.5cm、器高7.4cm、底径5.2cm。内面に花文及び点描文が施される。内面・見込みと体部横に段がつけられている。外面には縦位の櫛目文が施される。体部に整形時の凹凸が残るため、櫛目が途切れる部分もある。色調は内面、外面ともに灰オリブ色である。口縁部からやや

上に引き上げられた同安窯系青磁碗である。残存状況は3/5である。6は口径16.9cm、器高7.25cm、底径4.6cm。見込み以外に文様が施される。内面は櫛描文に花文が施される。外面は櫛描文が口縁部から底部方向に施されている。色調は内面、外面ともにオリブ灰色である。口縁部からやや上に引き上げられた同安窯系青磁碗である。残存状況は、1/3である。

貿易陶磁研究におけるこれら青磁碗の分類は、森田編年において、鎌倉出土の中国陶磁器と日本で多く検出されている地域である、北部九州（大宰府や博多地域）の中国陶磁器との比較が行われている。青磁は龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2・4類、皿Ⅰ類、同安窯系青磁碗・皿の出土層位により、12世紀後半から13世紀前半にその使用年代を求めることができる。またこの出土状況も大宰府編年とは矛盾しない事実ということから、今回本遺跡で出土した青磁碗も龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1・2a・2b類と同安窯系青磁碗Ⅰ-1b類に当てはまり、時期も同等と考える。但し、2の龍泉窯系青磁碗劃花雲気文碗の見込みの雲気文は碗Ⅰ-4b類の見込みの文様と類似しているが、時期的には問題ない。これらの輸入陶磁器は中世の遺構・遺物で検討した時代の範疇に十分におさまることができる。

輸入陶磁器は私貿易あるいは密貿易で当地へもたらされたものが、ほとんどであろうが、伊古の沿革史に、有明海に面する伊古の三百年以前の略図まで描いて、伊古海岸は立派な港であったとされている（瑞穂町誌より）。この地に有力な豪族が住んでいて、港と共に発展・交流が栄えていたことが推測されよう。

最後に今回の概報では調査成果のごく一部を紹介したにすぎない。よって個々の遺構や遺物の検討まで踏み込むことができなかつた。今後さらなる資料の整理と分析を行い、機会を設け報告していきたいと思う。ご指導・ご意見をお寄せ頂いたら幸いである。また発掘調査から整理作業、発刊に至るまで多くの人達の尽力を頂き、末筆ながら感謝の意を表したい。

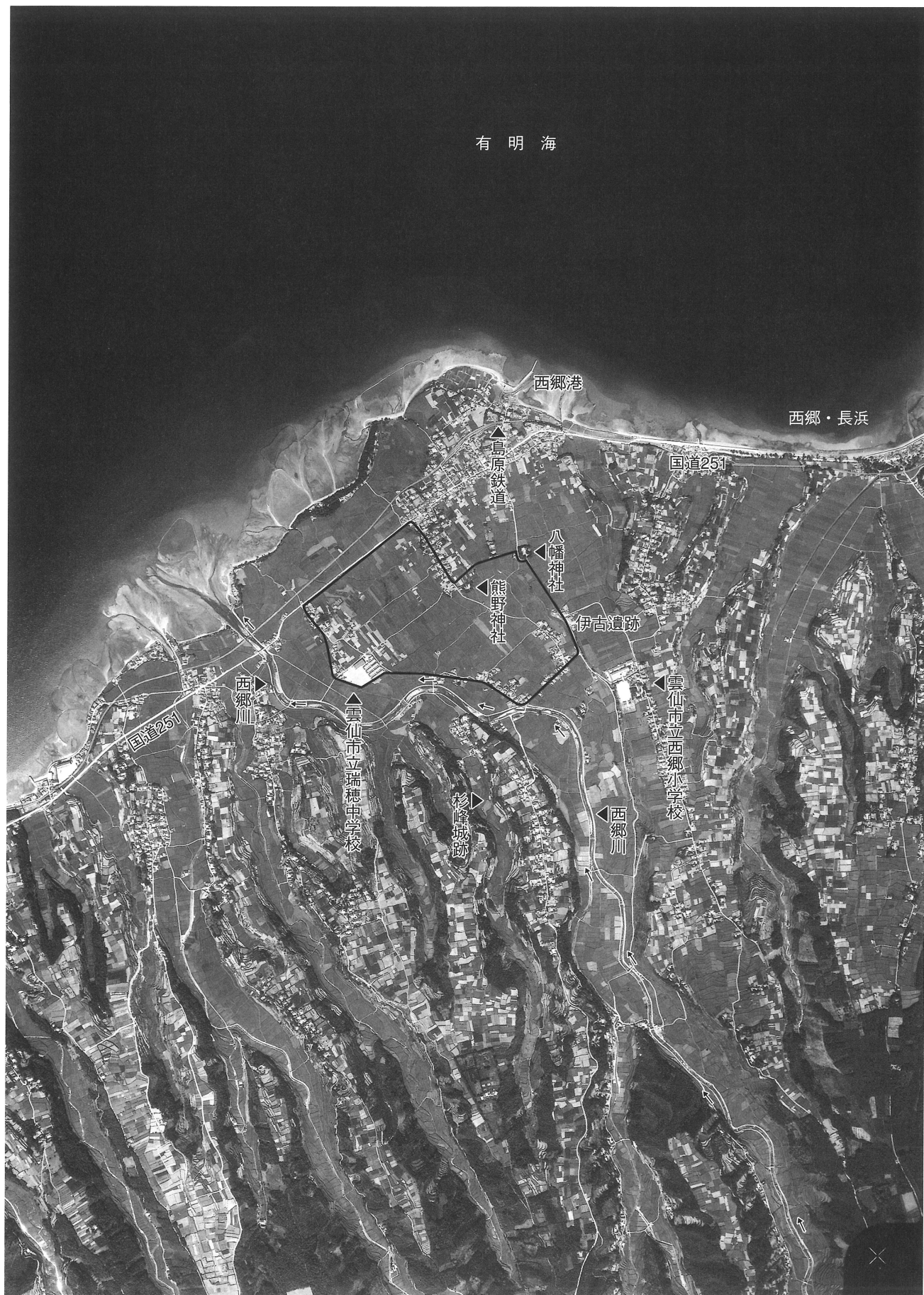
#### 【参考文献】

- 宮崎貴夫 1986「第一章Ⅲ遺物 7. 歴史時代土器・陶磁器・滑石製容器 (3)国産陶器・土器 C. 土師質土器」第二章総括 Ⅲ歴史時代の土器・陶磁器、滑石製容器について 3. 土師質坏・小皿の法量について」第三章結語『今福遺跡Ⅲ』（町田利幸・宮崎貴夫編）長崎県文化財調査報告書 第84集 長崎県教育委員会
- 安楽 勉・川畑敏則 1988「Ⅲ調査 3 出土遺物 (1)中世の遺構と遺物」Ⅵまとめ『岡遺跡』東彼杵町文化財調査報告書 第2集 長崎県東彼杵町教育委員会
- 安楽 勉・中田敦之 1985「Ⅳ歴史時代 2 中世の遺物 (3)国内産の遺物 土師器」Ⅸおわりに『榎田遺跡』長崎県文化財調査報告書 第76集 長崎県教育委員会 松浦市教育委員会
- 古門雅高・高野晋司 1998「第三章遺構と遺物 第2節遺物 5. 土師質土器」第四章まとめ『沖城跡』（高野晋司編）長崎県文化財調査報告書 第143集 長崎県教育委員会
- 秀島貞康・川瀬雄一 2000「第三章遺物 3. 土師質土器」第四章まとめ『沖城跡』（川瀬雄一編）諫早市文化財調査報告書 第14集 長崎県諫早市教育委員会
- 町田利幸 1994「Ⅵ. まとめ」『京ノ坪遺跡』瑞穂町文化財保護協会調査報告書 第2集 長崎県瑞穂町文化財保護協会
- 安楽 勉 1991「Ⅲ調査 中世の遺物」『尻無城跡』長崎県瑞穂町文化財保護協会
- 福田一志・東 貴之 1998「第1章 第1次調査 まとめ」『陣ノ内遺跡』（正林 護・永嶋 豊編）瑞穂町文化財調査報告書 第3集 長崎県瑞穂町教育委員会
- 中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 森田 勉 1981「鎌倉出土の中国陶磁器に関して」『貿易陶磁器研究』第1号 日本貿易陶磁研究会
- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁器研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
- 大川 清・鈴木公雄・工楽善通編 1996『日本土器事典』雄山閣
- 矢部良明編 1997『やきものの鑑賞基礎知識』至文堂
- 瑞穂町 1988『瑞穂町誌』長崎県瑞穂町

# 圖 版



有明海



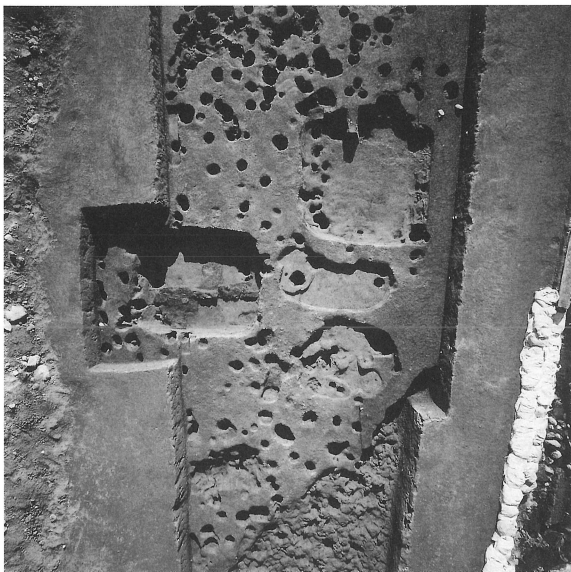
遺跡上空写真 (昭和35年度国土地理院)



D 6 区上空写真 (上が北)



D 6 区旧河川跡上空写真 (上が南)



D 6 区 SK-2・6・7・8 上空写真 (上が南)



E 区上空写真 (上が北)



E 区道路状遺構上空写真 (北半分)



E 区道路状遺構上空写真 (南半分)





D 4 区検出状況 (北より)



D 4 区 ST-1 検出状況 (西より)



D 4 区 ST-1 遺物出土状況 (西より)



D 4 区 ST-1 完掘状況 (西より)



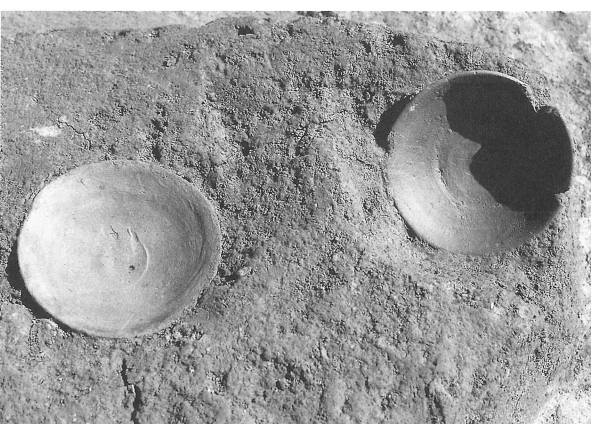
E 区石組み土層断面状況 (北より)



E 区石列・五輪塔出土状況 (東より)

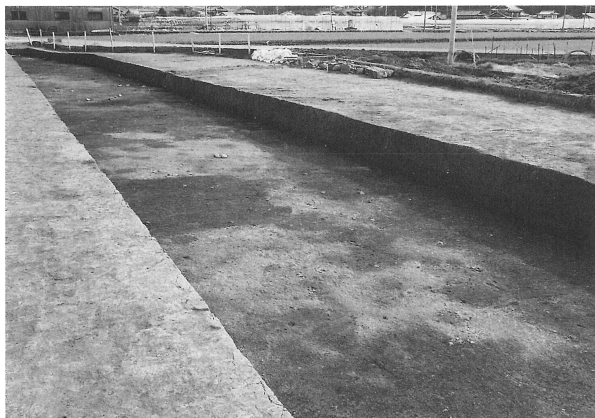


E 区製鉄炉出土状況 (東より)



E 区遺物出土状況 (東より)

図版 4



D 6 区遺構検出状況 (北より)



D 6 区 SK-2 検出状況 (西より)



D 6 区調査風景



D 6 区 SK-2 掘り下げ状況 (北より)



D 6 区 SK-2 完掘状況 (東より)



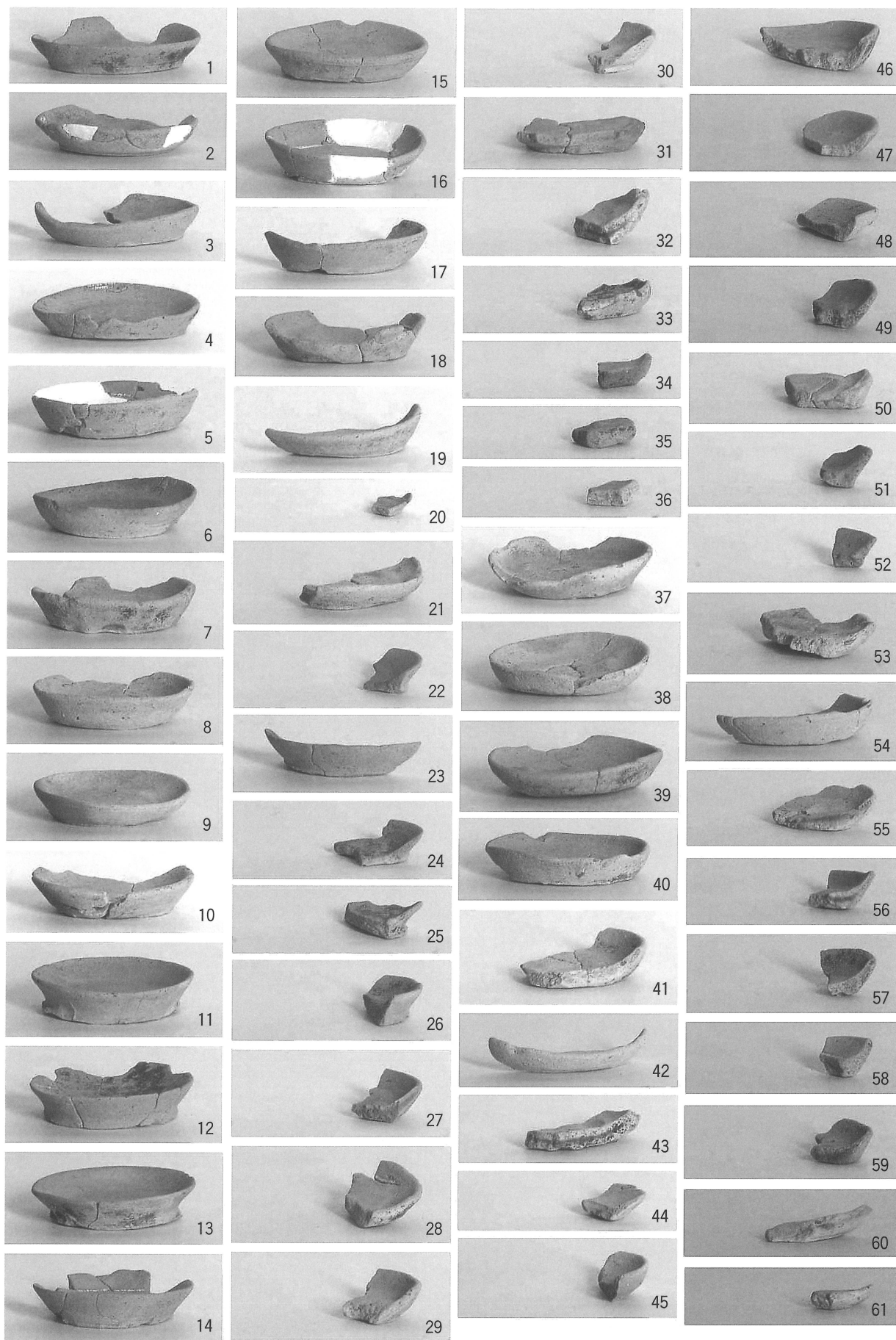
D 6 区 SK-6 完掘状況 (西より)



D 6 区旧河川跡遺物出土状況 (西より)

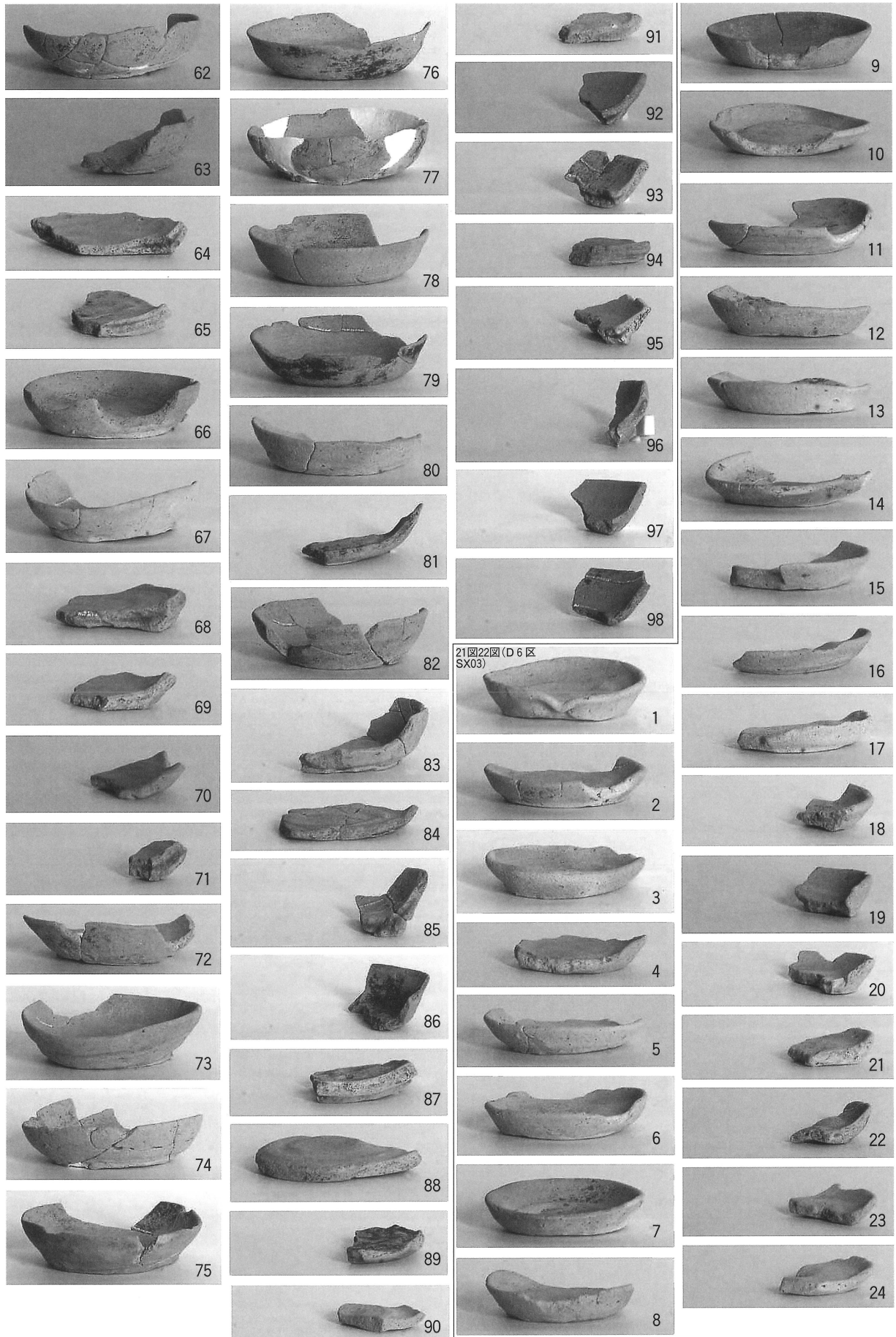


D 6 区調査風景



D 6 区 SX01 出土土師質土器 (19 頁第 17 圖、22 頁第 18 圖)

図版 6



D 6 区 SX01・SX03出土土師質土器 (22頁第18図、25頁第19図、27頁第20図、28頁第21図)



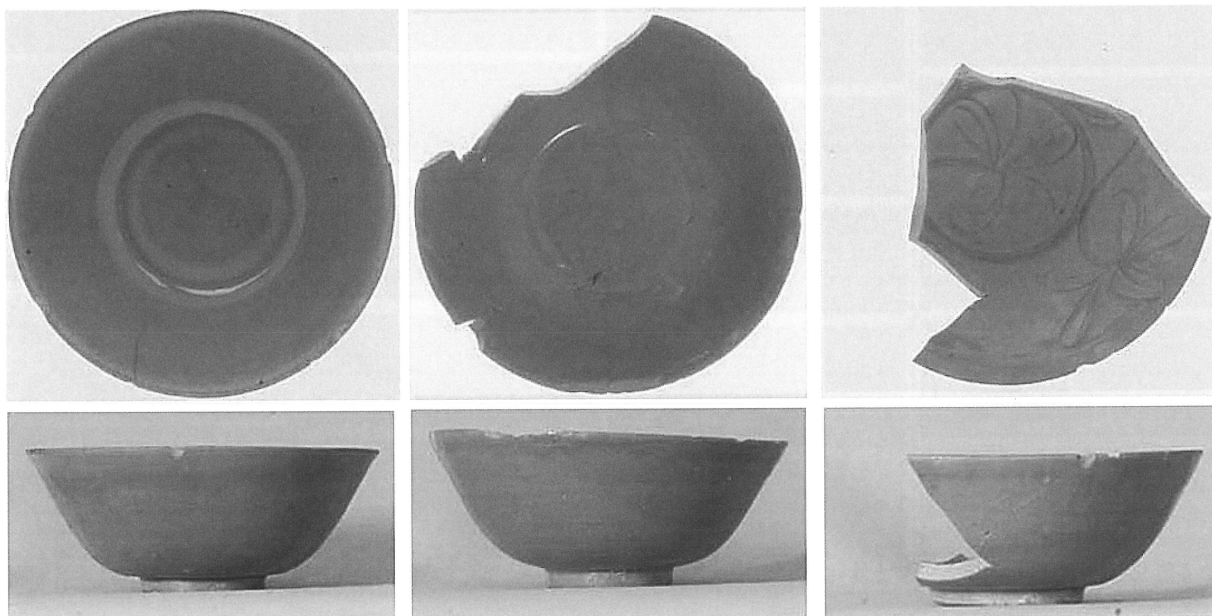
D 6区 SX03・旧河川跡出土土師質土器 (28頁第21図、31頁第22図、32頁第23図、34頁第24図) E区出土土師質土器 (11頁第9図)



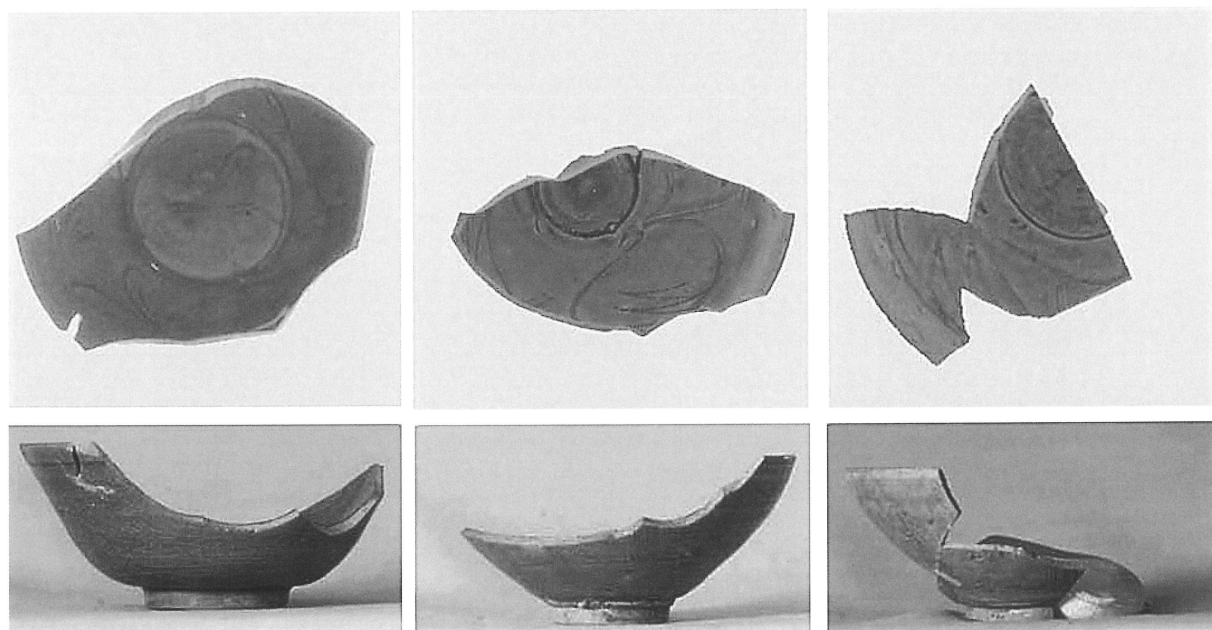
D 6区出土土師質土器 皿



D 6 区出土土師質土器 坏



C 区出土龍泉窯系青磁碗 (40頁第25圖) D 4 区出土龍泉窯系青磁碗 (40頁第25圖) D 4 区出土龍泉窯系青磁碗 (40頁第25圖)



D 2 区出土龍泉窯系青磁碗 (40頁第25圖) D 4 区出土同安窯系青磁碗 (40頁第25圖) D 2 区出土同安窯系青磁碗 (40頁第25圖)

## 報告書抄録

ふりがな	いこいせき							
書名	伊古遺跡							
副書名	中世編							
巻次								
シリーズ名	雲仙市文化財調査報告書（概報）							
シリーズ番号	第5集							
編著書名	山下美郷							
編集機関	雲仙市教育委員会							
所在地	〒854-0492 長崎県雲仙市千々石町戊582番地					Tel 0957-37-3113 Fax 0957-37-3112		
発行年月日	西暦：2008年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
いこいせき 伊古遺跡	ながさきけんうんぜんし 長崎県雲仙市 みづほちよう 瑞穂町 さいごういこみょう 西郷伊古名	42362	85-60	32° 51' 57"	130° 14' 40"	20060420 ) 20070320	4,100m <sup>2</sup>	圃場整備
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
伊古遺跡	遺物包含地	縄文時代草創期 弥生時代 古墳時代 中世		石器集中地点 土坑 ピット ウッドサークル		青磁 白磁 石鍋 土師質土器 瓦器椀		今回は、中世について報告するので主な遺物には縄文時代草創期・弥生時代・古墳時代を除く。
要約	<p>伊古遺跡は、島原半島北側に広がる雲仙普賢岳の麓扇状台地上に位置し、西には西郷川が流れ、東には比高差5mほどの舌状丘陵がのびる、水田地帯にあたる。細石器集中地点が検出されたのは、まさに丘陵崖下の伊古遺跡D2区北東部分である。マイクロ・コアやマイクロ・ブレイドやチップなど約1550点を超える土層堆積がみられ、黒曜石の石器の様相から縄文時代草創期と想定できる。他の区にも縄文時代、弥生時代、中世と石器の包含がみられるが、遺構には伴っておらず、伊古遺跡D2区の崖下脇に奇跡的に石器が集中する文化層が残存している。また、伊古遺跡C区の丘陵下には、中世の墓域の下層より、龍泉窯系青磁椀の副葬品が出土し、貿易が盛んに行われていたことが、旧河川堆積跡が検出された伊古遺跡D2区、D3区、D4区、D5区、D6区の遺物からも見て取られる。伊古遺跡D6区の旧河川堆積跡の岸辺には、土師器の祭祀遺構や竪穴状遺構が検出され、伊古遺跡E区には、道路状遺構や製鉄跡が検出されている。その他、弥生時代の包含層として、伊古遺跡H区に木製品水漬遺構（ウッドサークル）、伊古遺跡I区に環濠などの遺構や伊古遺跡F区に三基の甕棺やすべての調査区全体的に壺・甕・高坏・管玉・勾玉・鏡などの遺物が豊富に出土している。古墳時代の包含層として、伊古遺跡G区旧河川堆積跡より、銀環・須恵器の坏・蓋などが出土している。本書は、今回中世の遺構および遺物の出土状況を報告するにとどまっているが、伊古遺跡は、縄文時代草創期から、弥生時代、古墳時代、中世と複合している遺跡であり、その遺構・遺物の多さからも極めて重要かつ島原半島の古代人の生活を知るうえで最も手がかりとなる地域であり、周辺遺跡や類似例などを踏まえ、さらなる分析・検討を行う必要性がある。</p>							

## Abstract

Book title	Iko Site									
Subtitle	the Jomon period and the Medieval era									
Volume name	Report of an investigation Unzen-City cultural properties									
Volume	Vol 5									
Editors	Misato Yamashita									
Editorial organization	Unzen-City Board of Education, Nagasaki-Prefecture, Japan									
Address	Bo-582, Chijiwa-cho, Unzen-City, Nagasaki-Prefecture, 854-0492, Japan Tel 0957-37-3113 Fax 0957-37-3112									
Date of issue	31 th March 2007									
Site name	Location	City code	Site number	North latitude		East longitude		Investigated term	Investigated area (m <sup>2</sup> )	Cause of investigation
				° ' "	° ' "					
Iko Site	Iko Saigo, Mizuho-cho Unzen-City, Nagasaki- Prefecture, Japan	42362	85-60	32° 51' 57"	130° 14' 40"	20-Apr-06 ~ 20-Mar-07	4,100			
Site name	Period	Main features		Main artifacts				Remarks		
	the Jomon period the Yayoi period the Tumulus period the Medieval	<ul style="list-style-type: none"> <li>• stone artifacts concentration</li> <li>• pit</li> <li>• small pits</li> <li>• Wood circle</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Celadon</li> <li>• Chinese White Ware</li> <li>• A stone pan</li> <li>• Haji pottery object</li> <li>• Ruin earthenware remnants wooden bowl</li> </ul>						



雲仙市文化財調査報告書(概報) 第5集

# 伊 古 遺 跡

2008

発行 雲仙市教育委員会  
長崎県雲仙市千々石町戊582番地  
TEL0957-37-3113

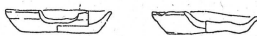
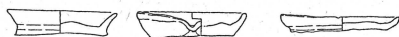
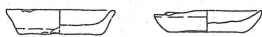
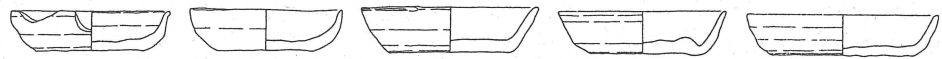
印刷 雲仙企画印刷(株)  
長崎県雲仙市小浜町南本町26  
TEL0957-74-2033



Report of an investigation Unzen City Cultural properties Vol.5

# IKO Site

Excavation Report with Furue district Prefectural Possession field maintenance project



March 2008

Unzen City Board of Education, Nagasaki Prefecture, Japan

